

抗議文

ロシア連邦はウクライナより軍隊を即時撤退し、平和的解決のためのテーブルに座れ
プーチン大統領は「核抑止論」を盾に、世界を扇動する行為を即刻辞め、被爆者の声
を聴け

日本時間の2月24日にロシア連邦軍は、ウクライナへと侵攻した。ロシア連邦のプーチン大統領は、この侵攻を「自衛の為」と言い張るが、ウクライナ国内のドネツク州やルガンスク州などの親ロシア派の勢力を一方向的に「独立承認」するなど、いわば「内政干渉」を行い「傀儡政権」を作り上げ、今回の軍事進攻に踏み切っている。また、隣国がNATOに加盟しようが、EUに加盟しようが、ロシア連邦が干渉する事項ではなく、支障があるのであれば「外交」での解決も可能であったはずである。にもかかわらず、いわば、自らの「エゴ」だけで軍を動かし死者を出している。プーチン大統領は「人」として恥を知るべき行為だと認識せよ。

併せて、プーチン大統領は、自国が核保有国であることをいいことに「抑止論」でもって扇動をした。しかも、隣国のベラルーシにおいて憲法を改正させてまで、核武装を可能にすることも承認した。これは、被爆者や被爆地を愚弄するものであり、到底許されない。今もその核爆弾による被害に苦しみ、一日も早くこの世界から非人道兵器である「核」を廃絶するのに奔走しているその渦中に、その力をもって「抑止力」を発揮しようとするのは言語道断である。

先の悲惨な大戦で、何を学んだのか。もう二度と、悲劇を繰り返さないために、国際連合が創設され、世界でおこる争いを、平和的解決するために安全保障理事国として、ロシアに権限があるのではないのか。

改めて、被爆地ヒロシマより、ロシア連邦プーチン大統領へ抗議する。

即刻、軍事行動を停止し、平和的解決のためのテーブルに座れ。そして、核兵器廃絶の道を閉ざさず、被爆地ヒロシマ・ナガサキへ来て、被爆者の声を聴け。

2022年3月2日
広島県退職教職員協議会
会長 坂本 健